

全校生徒で学校を創る

2年生を中心とした新体制になった生徒会は、「全校生徒で学校を創る」を目標に掲げています。意見箱を活用し、生徒一人一人の意見を取り入れながら生徒主体の活動を行っています。旧生徒会から引き継いだ「武蔵ヶ丘中SNSルール」や給食時間に放送を聞く「もぐもぐタイム」などにも取り組みながら、全員が心地良く過ごせる学校を目指しています。これまでの伝統を受け継ぐと共に、新たな武蔵ヶ丘中として地域に発信・協働できるように、生徒と職員が一丸となってより良い学校を築き上げていきます。



「生徒会リーダー研修」(12月)の様子

「自分らしく生きる」



コミュニケーションで笑顔を大切にしている糟谷さん

中三の夏、私は今まで生きてきた中で一番大きな決断をしようとしている。それは、高校生になったら家族と離れて寮生活を始めることだ。

私の父は来年の春に愛知へ転勤するかもしれない。その話を聞いたのは半年くらい前だった。私は今まで何回も引っ越してきたので

あまりびっくりしなかった。その時両親は、「まだ時間はあるから、自分でじっくり進路について考えてごらん。」と言った。家族と一緒に愛知へ引っ越して愛知の高校に行くか、私だけ熊本に残って熊本の高校へ行くか、色々考えた。そして熊本に残りたいという気持ちが私の中でだんだん強くなっていった。なぜなら、熊本には自分にとって大切な友達がいるからだ。

私はアメリカで生まれて、その後メキシコへ引っ越して転校を繰り返してきた。アメリカでは英語、メキシコではスペイン語を話す学校へ通い、クラスの中に日本人は私ひとりという時もあった。その頃はあまり言葉の壁は感じなかったけれど、今まで見たことのない行事や日本とは違う生活習慣で分からないことは周りの様子を見ながら自然に覚えていった。日本人だからといって特別な目でみられることもなく、困った時は先生や周りの友達がサポートしてくれた。2011年3月日本で大地震が発生し東日本で大きな被害が出た。数日後、その当時私が通っていたアメリカの小学校では、日本のために募金を集めるチャリティーイベントを開いてくれた。今思い出すと、困った人がいたら国を越えてでも、助けたいとすぐ行動に移せるなんてすごいことだ。

その後中国で約3年間暮らして、小学3年生の時に熊本へ引っ越した。生まれて初めて日本で住んだ場所が熊本だった。海外から転校してきた私に学校の友達は優しく接してくれた。教室で話しかけてくれたり、休み時間に遊びに誘ってくれたり、下校の時は学校から家の近くまで一緒に帰ってくれたりみんな親切にしてくれた。最初は新しい学校に慣れるかドキドキしていたが、仲のいい友達ができて毎日楽しい学校生活を送ることができた。6年生になった4月に熊本地震が起きた。大きな揺れが何度も続いてとても怖くて不安だった。私の家は水道と電気が止まったので復旧するまでの間、家族と一緒に車の中で過ごした。ある日、

菊陽中学校 3年 糟谷 成那

アメリカから荷物が届いた。差出人は私がアメリカで通っていた時の小学校の先生だった。段ボールを開けると先生方や友達からの寄せ書き、アメリカのお菓子、Tシャツなどが入っていた。寄せ書きには、地震のニュースを知ってみんなが心配していることや、熊本の復興を応援していることなどがたくさん書いてあった。メッセージを読むうちに「こんなに遠くに住んでいる人たちにも支えてもらっているんだなあ」と嬉しくなった。その時に送ってもらったTシャツは大好きで、だんだん色が落ちてきているが今でも大事に着ている。ボロボロになっても絶対に捨てられない一生の宝物だ。

中二の時、学校で「ふれあい人権教室」があり、熊本ヴォルターズのネパウエ選手の話聞いた。バスケットを始めたきっかけや日本へ来てチームメイトとどのようにコミュニケーションを取っているかなどの体験談を話してくれた。私はネパウエ選手の話聞いて、立場や年齢は違っても共感できることがたくさんあった。それは、生まれ育った国を離れて生活するのが大変だったり、文化や言葉が違う国の人とコミュニケーションをとるのが難しかったりすることだ。ネパウエ選手は日本語が分からなくても自分から積極的にチームメイトとコミュニケーションを取ろうと努力したそう。生徒からの質問コーナーで「好きな日本食は何ですか?」と聞いたら「寿司だ」と答えてくれたのが印象に残った。最初は言葉が通じなくても、その国の食生活や文化などを通してお互いのことをもっと知ることができる。まず相手のことを知り、そして自分自身の存在を認めてもらうことを学んだ。

私は人とコミュニケーションをとる時に心掛けていることがある。まずは笑顔。それから相手の意見を最後まで聞くこと。もし言葉が通じない時は、顔の表情を読み取ったり身ぶり手ぶりで伝え合ったりする。大切なのは相手を受け入れる気持ちだ。国籍や生まれ育った場所は関係なく、どんな人も受け入れる気持ちがあれば、そこにはお互い居心地のいい場所が生まれる。今の私にとって熊本はそういう場所だ。だから私はここに残ろうと決めた。私は今まで多くの人たちに支えられてきた。その感謝の気持ちを忘れず、これからは自分が周りの人たちを支えていけるように考えて行動したい。

(この作文は2019年度第39回全国中学生人権作文コンテスト熊本県大会で奨励賞を受賞した作文です。)

菊陽句会報

きくよう文芸

短歌会

- | | | | |
|--------------------|-------|----------------|-------|
| 寅さんの映画の戻る年の暮 | 田島 三間 | 山茶花やひと夜の朝錆びてけり | 木村 信子 |
| 遠望の噴煙のぼる初景色 | 宮川ユキエ | 独り住む知足の暮し去年今年 | 財津 早雪 |
| ミニスカートの女子高中生等大マフラー | 紫藤 祥子 | 年毎に隠せぬ老いよ初写真 | 原野レイ子 |
| 梯子より夫の指示とぶ年用意 | 曾我 育代 | 山茶花のうすき花びら掌 | 寺尾千代子 |
| 朝時雨阿蘇山被ふ白さかな | 曾我トモ子 | 外に遊ぶ子らの影みゆ障子かな | 福田 貴子 |
| 山始箱根駅伝令和国 | 緒方チエ子 | 袖子風呂に家族の平癒母念ず | 北川しんじ |
| 限りある命の限り冬薔薇 | 米山るみ子 | 何もせぬ事も今年の年用意 | 佐藤 澄世 |
| 空青し噴煙白し明の春 | 吉田 幸子 | | |
-
- | | |
|------------------------------|-------|
| 枝細きシンボルツリーの木椏立つ家の風戸に訃音を聞きぬ | 有久 賢治 |
| 新設のビニールハウスのミニトマト天井高く生育早し | 梅田 國雄 |
| 時雨やむ畑黒々と潤いて長く列なし緑の芽のたつ | 佐藤せい子 |
| 鉄紺の阿蘇山並みに日の出でて輝く光は大地を照らす | 中村トシエ |
| ああここにローズマリーの花が咲くうすむらさきの雪の花だよ | 松本 東亜 |